

医療・健康分野の デジタルトランス フォーメーション

～医療アクセス改善からPHR活用まで、
デジタル技術が医療・健康をどう変えるのか?～

医療分野におけるデジタル技術の活用が進んでいる。とくに新型コロナウイルス感染症の感染拡大が契機となってオンライン診療をめぐる規制緩和も進み、デジタル技術を活用した様々な医療・健康サービスが広まりをみせている。また、情報通信ネットワークを通じて収集された各種情報はPHR（パーソナルヘルスレコード）として蓄積され、疫学的研究から一般向け健康サービスに至るまで様々な活用に期待が寄せられている。

こうした医療のデジタルトランスフォーメーションは今後地域に暮らす人たちの健康な暮らしにどのように貢献していくのだろうか。

本シンポジウムでは、医療分野におけるデジタル技術の活用を実践されてきた様々な立場の方からご講演をいただくと共に、医療へのアクセスの改善やPHRの活用による沖縄県民の生活に根差した医療のデジタルトランスフォーメーションのあり方について議論していきたい。

2024.8/31 土 13:00～16:50
名桜大学多目的ホール
およびオンライン配信(zoom)

プログラム ファシリテーター:木暮 祐一(名桜大学 教授)、本村 純(名桜大学 上級准教授)

13:00-13:05 開会の挨拶

奥本 正(名桜大学 学長補佐)



13:05-13:30 基調講演

『医療へのデジタル技術の活用で楽しく健康に暮らせる社会へ』

宮田 俊男(早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授)

<第1部> デジタル技術で医療がもっと身近なものになる

ファシリテーター:木暮 祐一(名桜大学 教授)



13:35-15:05 パネルディスカッション

話題提供 『医療は手のひらに』

木暮 祐一(名桜大学 教授)



登壇者①

『オンライン診療が地域医療にどのように貢献したか』

黒木 春郎(医療法人嗣業の会 こどもとおとなのクリニックパウルーム 理事長/
厚生労働省「オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直しに関する検討会」構成員)



登壇者②

『AIとヘルステックがもたらす未来の健康管理』

大石 怜史(ヘルスケアテクノロジーズ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)

15:05-15:15 休憩

<第2部> PHRでやんばるがどう変わるのか

ファシリテーター:本村 純(名桜大学 上級准教授)



15:15-16:45 パネルディスカッション

話題提供 『PHRをめぐる最新の動向と地域医療への活用の可能性』

石見 拓(京都大学大学院医学研究科 教授)



登壇者①

『公立沖縄北部医療センター開院への期待

ー北部地域における医療の現状と課題を踏まえてー』

田里 大輔(北部地区医師会病院 医療連携統括部長)



登壇者②

『アプリを通じた住民健診データの活用』

田中 健介(沖縄セルラー電話株式会社ソリューション営業本部ビジネス開発部 部長)

16:45-16:50 閉会挨拶

奥本 正(名桜大学 学長補佐)

参加対象者
ITヘルスケア学会
参加者および
やんばる地域の
医療従事者、
地域・一般の皆様、
後援団体の会員

参加費無料
事前申込み不要



<https://www.meio-u.ac.jp/>
オンライン配信の詳細については、
追って名桜大学HP
イベント欄に掲載いたします